

本当の教えに出遇うことは「生きる」ことから、「生かされる」ことへの大転換

無碍の一通 第58号

発行:2017年10月27日
発行者:浄土真宗本願寺派 長尾山 天龍寺
〒739-0147 副住職 天野英昭
東広島市八本松西6丁目10番1号
TEL・FAX 082-428-0160・082-428-1360

報恩講並びに秋季永代経法座

親鸞聖人のお法りを喜ばせていただきましょう



日 時 11月16日（木） 9:00～15:00頃

ご講師 北山 祐章師（福山市沼隈町 光源寺副住職）

朝席 9:00～11:30

お斎（お食事） 地元で取れた季節のお野菜を使って、地域の皆様が精進料理を用意
してくださいます。

昼席 13:00～15:00

第73回歎異抄輪読会

日 時 11月30日（木） 19:00～20:30頃

ご講師 松田正典先生（広島大学名誉教授）

費 用 500円

参加者 天龍寺の門信徒の方のみならず、どなたでも参加は自由です。

おみのりカフェ寺ス 11月21日（火） 14:00～16:00

内 容 勤式（おつとめ）・作法（きまりごと）・お菓子と共に、茶話会

参加費 500円 どなたでも参加は自由です。



★天龍寺仏教壮年会 月例会

10月31日（火）19:00～20:30

磯松天龍寺墓苑合同墓秋彼岸法要参拝のお礼

先月の9月23日（土）に昨年同様、秋彼岸法要をさせていただきました。今年も大変お忙しい中、遠近各地より多数のご参詣いただきました事感謝申し上げます。

さらに昨年同様に法要が終わり片づけをしようとしておりますと「椅子・焼香台等を持って行ってあげるよ。」と温かいお言葉をいただき、ご参詣をいただきました方々と椅子・焼香台等を片づけさせていただきました。毎年の事ですが、いつも温かい雰囲気の中での法要を執り行う事が出来ました事、当山としましてありがとうございました、重ねて感謝申し上げます。

還暦を迎えるに当たり、しみじみ思うこのごろです。Ⅲ

「不思議」とは思議すべからずと近頃解釈をしております。人間の知性・理性では理解できない、五感を超えた大きな世界・大きな願いに目覚め、日頃小さな願いに生き一喜一憂し、人生終焉の際に「いったい自分の人生とは何だったのか。」「自分の歩いてきた道は、正しかったのか？」と問う生き方から、二河白道の喩えではありませんが、「この道を歩んで行け、この道を歩んで来い」との力強い絶対の呼び声のもと、本当に難しい事ですが、大きな願いの中で生きて行く人生を歩めたらと思う事であります。

先般、あるお宅へお伺いをした際に、そのお宅の方が「また、朝がきた。」と憂鬱な顔をして言われた事がありました。食べる事に不自由をしているわけではなく、かといって何に困っていらっしゃるわけではないと思った事です。しかし、日増しに身体が弱り、自分の人生に対して、何か納得がいかない部分がおありなのかとも感じたことであります。

言葉に語弊があつてはいけませんが、この言葉も度々耳にしてきましたが、『死んだら終わり。否、健康のうちが花。』ではありませんが、健康な時は、それはそれでよいと思いますが、生産性が落ち、社会貢献等が出来なくなり、家族・周りの方々のお世話をいただく身体になっても、大きな願いのもとお浄土・絶対の世界に生まれさせていただく人生、仏となさせていただく人生、念佛成就の為の人生と受け取らせていただければ、たとえ健康を害し、社会等に貢献が難しくなっても、意味ある人生をおくる事が出来ると考える事があります。人間の価値観を超えた大きな願いに導かれていく人生には、人生の全てに意味・意義があると受け取らせていただく事であります。

最後に、以前教え子に「一つの卵子に一つの精子が入り受精し、私という存在が、この世に生を受けたのだが、別な精子が入り、受精した場合、私とまったく同じ人間が、この世に生を受けるのだろうか。」と質問をしたことがあります。残念ながら教え子からは、答えは返って来ませんでした。ただ、私には3人の息子がいますが、それぞれに違っています。その事をふまえ私なりに思いますに「人として生を受ける事は、本当に不思議な事だと思います。」

健康・家族・財産等は、この世を生きて行く上では、とても大切なものです。しかし、一方でそれらはいとも簡単に崩れ去っていくことも私たちは経験の中から認識していると思います。生きて行く上では、多くのものを持ってる事が、安心であり・人間の価値観でいう所のよい人生を歩むことが出来ると知性等で理解をしています。故に「南無阿弥陀仏」で大丈夫なのかとも不安になる事も当然であると思う事です。それ故に「親鸞におきては、ただ念佛して弥陀にたすけられまいらすべしとよきひとの仰せをかぶりて信するほかに別の子細なきなり」というお言葉が、私には深く重くいただけるお言葉であります。

これから私の人生にどの様な事が待っているか分かりませんが、自らの人生の終焉を想像して、一般的な言い方になりますが、病院・施設のベッドの上で、今まで依り所としていた健康・家族・財産等、何一つ役立つ物はなく、当山にご関係をいただきました方が、亡くなられる3週間前にお伺いをした時に、「南無阿弥陀仏があつてよかった。」としみじみ言われた事がありました。自分自身の身体がどの様な状況になろうとも、離しても離れない、そのお言葉をいただきました折に、私なりに本当に大切なものを教えていただいたことがあります。

重ねて南無阿弥陀仏と共に順縁・逆縁をご縁としいいただき、様々な事に翻弄されながら、この境涯を生き、娑婆の縁が切れるとお浄土に生まれさせていただく人生をみなさま共々歩めさせていただければありがたいと思う事です。

※「無碍の一通56~58号」で長きに渡り掲載させていただきましたことお詫び申し上げます。